

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 22 年 2 月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

女岳北東斜面では、2009年8月に新たな噴気地熱域が確認された後、12月にかけて地熱域の拡大が確認されていますが、その後も徐々に拡大していると推測されます。

ただちに噴火する兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

平成21年10月27日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 熱活動の状況（図2～3）

仙北市在住の方から提供を受けた写真によると、2009年12月に実施した観測時と比較して、融雪域の拡大が認められました。このことから、女岳北東斜面では、その後も徐々に地熱域が拡大しているものと推測されます。

以前から定常的に地熱の高まりがみられている女岳山頂北部の噴気地熱地帯では、特段の変化は認められません。

・ 地震や微動の発生状況（図4）

地震活動は低調に経過しています。

24日15時07分に、継続時間の短い（約20秒）振幅の小さな火山性微動が観測されましたが、東北地方整備局の遠望カメラでは微動の発生前後で表面現象等に変化は認められませんでした。

その後、火山性微動は観測されず、火山性地震も少ない状態が続いています。

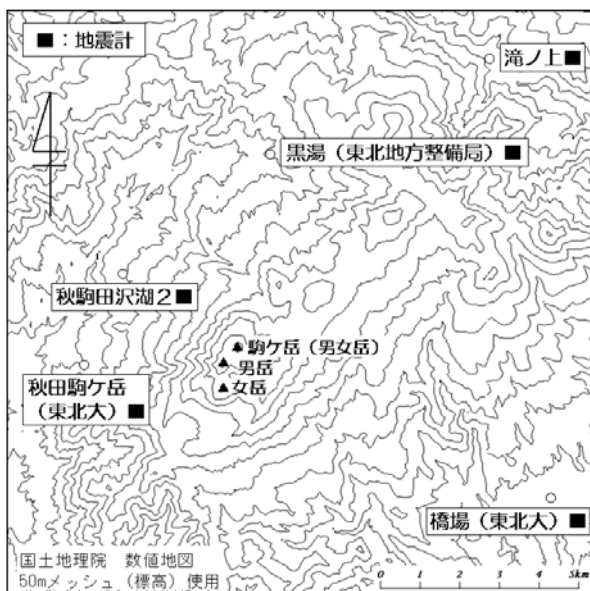


図1 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

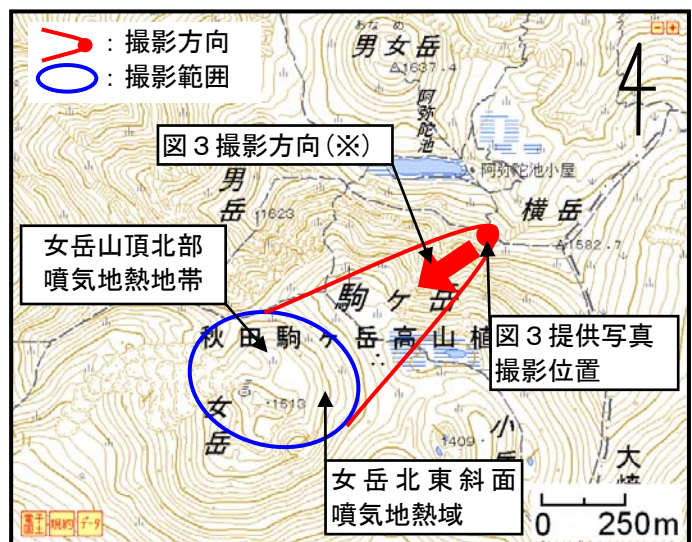


図2 秋田駒ヶ岳 地形図と撮影地点

(※) 図3は上空から撮影されたため、図中ではおおよその撮影方向を示す。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年 3 月分）は平成 22 年 4 月 8 日に発表する予定です。

※資料は気象庁のデータの他、国土交通省東北地方整備局、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。



図3 秋田駒ヶ岳 女岳北東斜面の噴気地熱域の状況

上図：2010年2月24日、横岳付近から撮影（仙北市在住の方からの提供写真）

下図：2009年12月1日、上空からの撮影（秋田県の協力による撮影）

- ・ 赤色実線が2009年12月に実施した観測時と比較して融雪域の拡大が認められた領域です。
- ・ 黄色破線が2009年12月1日の上空からの観測で確認された融雪域です。
- ・ 橙色破線が以前から確認されている山頂北部噴気地熱地帯です。

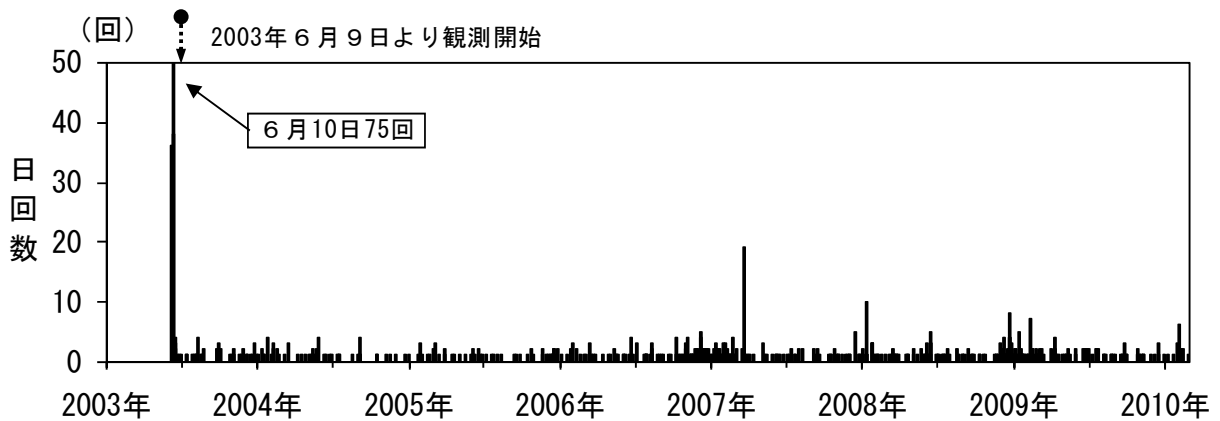


図4※ 秋田駒ヶ岳 日別地震回数（2003年6月～2010年2月）